

平成30年産水稻の作付面積及び9月15日現在における作柄概況 (和歌山県)

— 主食用作付見込面積は6,430haの見込み
10a当たり予想収量は493kg(前年産に比べ14kg減少)の見込み —

1 作付面積

平成30年産水稻の作付面積(青刈り面積を含む。)は6,430haで、前年産に比べ130haの減少が見込まれる。うち主食用作付見込面積は6,430haが見込まれる。

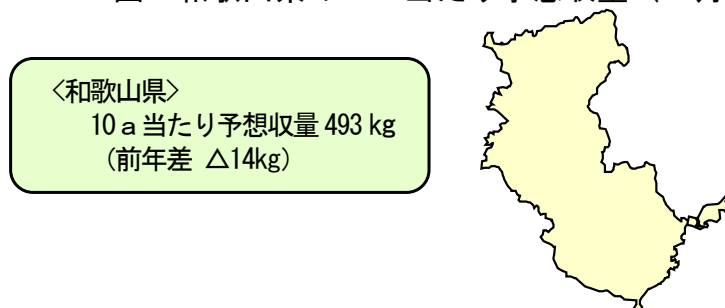
2 作柄概況

- (1) 穂数は、7月以降高温で経過し、無効分けつが増加したことから「やや少ない」となった。
- (2) 1穂当たりもみ数は、穂数がやや少なくなったことによる補償作用から「やや多い」となった。
- (3) 全もみ数は、穂数はやや少なく、1穂当たりもみ数がやや多くなったことから「平年並み」となった。
- (4) 登熟は、8月以降に来襲した台風第20号、第21号の暴風雨による影響や9月以降、日照時間が平年を下回って推移していることから「やや不良」が見込まれる。
- (5) 以上のことから、9月15日現在の10a当たり予想収量は493kg(前年産に比べ14kg減少)が見込まれる。また、農家等が使用しているふるい目幅ベースの作況指数は99となる見込み。
- (6) 被害は、台風の暴風雨による倒伏が発生した。また、スクミリンゴガイ(ジャンボタニシ)による食害や山間部での獣害がみられる。

3 予想収穫量(主食用)

主食用作付見込面積に10a当たり予想収量を乗じた予想収穫量(主食用)は3万1,700tが見込まれる。

図 和歌山県の10a当たり予想収量(9月15日現在)



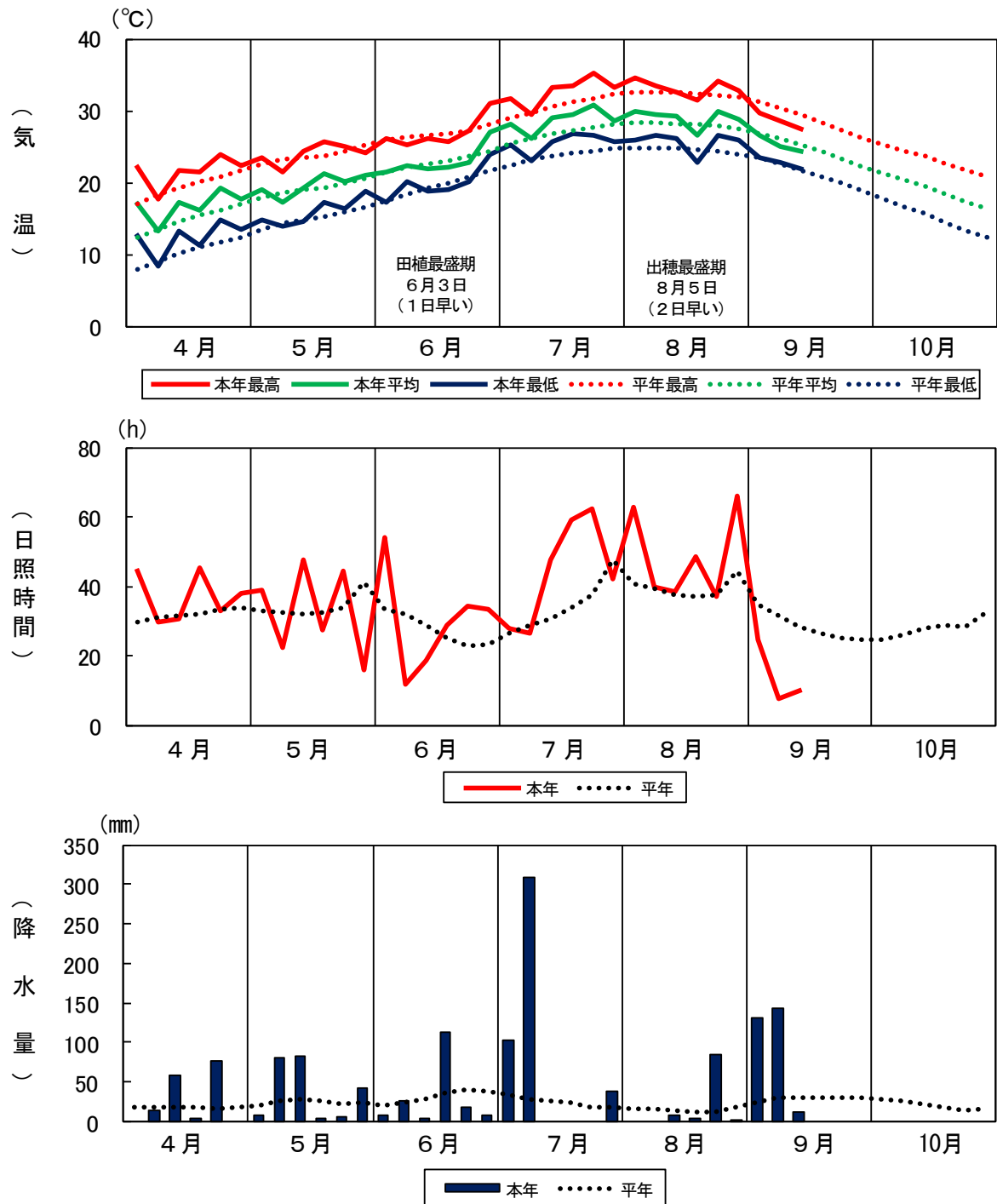
- 本調査における作柄概況(9月15日現在)は、その後の気象が平年並みに推移するものとして作柄予測を行った。したがって、今後の気象条件等により作柄は変動することがある。
- この資料は、「平成30年産水稻の作付面積及び9月15日現在における作柄概況(近畿)」(平成30年9月28日公表)の補足資料として作成したものである。

本資料は、近畿農政局ホームページ「統計情報」の次のURLから御覧いただけます。

【 <http://www.maff.go.jp/kinki/toukei/toukeikikaku/yotei/2018.html> 】

【参考】

和歌山県（和歌山市）の気象



資料：気象庁『アメダスデータ』

注： 田植期及び出穂期の最盛期は、県平均の期日である。

なお、()内は、対平年差である。

【お問合せ先】

近畿農政局 和歌山県拠点 統計チーム

電 話：(代表) 073-436-3831 内線 303
(直通) 073-436-3835

F A X： 073-436-5002